

なな一る訪問看護デベロップメントセンター
「いなかんご・地域共創モデル」研究助成 公募要項

1. プロジェクトの趣旨

「いなかんごプロジェクト」は、三重県伊賀市大山田地域をフィールドに、訪問看護を核として「誰もが最期まで住み慣れた自宅で、自分らしく暮らし続けられる社会」の実現を目指す取り組みです。

本プロジェクトでは、以下の3つの柱を連動させ、地域包括ケアの深化を図っています。

- **普及・啓発(意思の尊重)**: 令和8年度より「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)プロジェクト」を始動し、本人の望む最期を語り合える風土を醸成しています。
- **地域づくり(未病・予防)**: 認知症カフェの運営や看護師による健康相談会を通じ、心身の不調を防ぐ互助基盤を構築しています。
- **環境整備(療養支援)**: 訪問看護事業により、重症化後も在宅生活を維持できる専門的支援を提供しています。

本助成は、これら3つの柱のうち、特に「地域づくり(未病・予防)」の領域を重点テーマとして設定し、この取り組みを基盤に、人間科学、社会学、福祉学、地域政策等の視点を持つ大学の研究室(ゼミ)を対象として、ACPや訪問看護と有機的に結びついたフィールドワークによって得られる実証的な知見を広く募るものです。

本助成の特徴は、提案されたアイデアや検証結果を、地域への還元や社会実装の可能性を見据えながら、実際の現場において検証できる点にあります。こうして得られた成果は、将来的に自治体(伊賀市等)への政策提言や官民連携へと発展させていくことを視野に入れていきます。

研究を単なる知見の蓄積にとどめるのではなく、社会実装へとつなげていくプロセスとして、次世代の地域ケアモデルを共に創り上げる意欲的な提案を期待しています。

2. 研究・実践のキーワード

以下の視点から、自由かつ独創的な発想に基づくアプローチを募集します。

- 1 地域コミュニティの再編
希薄化する過疎地の人間関係を、訪問看護を一つの契機としてどのように再構築できるか。住民が参画できる新たな互助のあり方。
- 2 QOL(生活の質)と幸福度の可視化
「最期まで家で暮らすこと」が、本人・家族・地域社会に与える心理的・社会的価値の検証。
- 3 多世代共生と役割の創出
高齢者が「支えられる側」だけでなく、地域の中で役割を持ち続けるための仕組み。学生や若者との関係性の創出。
- 4 行政連携・社会実装モデルの提案
他地域でも展開可能な持続可能な地域モデルや制度設計の提案。

3. 助成内容

助成金額: 1プロジェクトあたり 上限100万円(一括給付)

採択数: 1件(予定)

助成対象経費: フィールドワーク旅費、宿泊費、調査協力費、実証活動に伴う費用、資料作成費、その他プロジェクト遂行に必要な経費

4. 応募資格

大学の学部・大学院の研究室(ゼミ)単位であること(人間科学、社会学、福祉学、地域政策等)指導教員のもと、学生が主体となって活動すること

伊賀市大山田地域等において、地域住民との対話・参与観察等を含むフィールドワークが実施可能であること

5. 採択者の義務

- 1 フィールドワークの実施
伊賀市大山田地域等において現地調査および地域住民との関わりを行うこと
- 2 成果報告会への登壇
2027年3月頃に開催予定の報告会にて活動報告を行うこと
- 3 学会等での発表
本助成により得られた知見を、関連学会(社会学、人間科学、地域福祉等)にて発表すること

6. 本プロジェクトの特徴・メリット

- 1 現場での実証機会
優れた提案については、地域の現場において実証的に検討する機会を提供します。
- 2 行政との接点
年度末の報告会では、行政関係者との意見交換の場を予定しています。
- 3 キャリア形成への寄与
実社会の課題に対し、自らの専門性を活かして取り組む経験は、将来に資する大きな実績となります。

7. スケジュール(予定)

公募締切: 2026年5月末

採択審査・面談: 2026年6月中旬

フィールドワーク・実証期間: 2026年7月～2027年3月

成果報告会: 2027年3月頃(予定)

8. 選考基準以下の観点により総合的に評価する

実効性: 提案が地域において実現可能な内容であるか

主体性: 学生が主体的に地域や専門職(看護師)と関わる姿勢があるか

感性: 本プロジェクトの理念への共感があるか